
祝福召喚と主人公補正

葉藻阪 松園

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

祝福召喚と主人公補正

【Nコード】

N7055Z

【作者名】

葉藻阪 松園

【あらすじ】

高校の帰り道に突然光に包まれたと思ったら、目の前に血だらけの美人さん???意味分からん…。主人公補正（呪い?）をもらって、美少女と美女に囲まれて主人公がある意味無双する話です。王道な異世界召喚ものになるはずです。

プロローグ

俺は、藤沢章17歳。

170cmで、太ってもいないが痩せてもいない（《注意》あくまで本人の自己申告です）。

趣味は、音楽聴くことと、マンガを読むこと。

好きな言葉は、夏休みと冬休み。

嫌いな言葉は、勉強とテスト。

その辺にいるごくごく普通の高校生だ。

少しむっつりだけど…。むっつりなとも含めて、普通の高校生だ。

いや今はそんなことどうでもいい。

大切なのは、俺が日本人で、日本に住んで、今、学校から帰っている途中だったということだ。

当然、今日はお気に入りの漫画の発売日だったから駅前の本屋でマンガをゲットしたし、コンビニで新発売のアイスも買っていた。

新触感のアイスらしい。

そして、マンガを読みながら、ロックな曲をイヤホンでガンガンにながしつつ、アイスをくわえて鼻歌混じりで下校しているところだった。

通りすがりのおばちゃん顔をしめるような普通の高校生のはずだ。まだ、エロ本読んでないだけ健全ともいえる。

まあ、むっつりだから人前で読むわけないが…。

話がずれたな…。

現実逃避はやめて、もう一度、現在の状況を把握しよう。

目の前に血だらけの黒髪褐色の美女。

訳が分からん…。

学校から帰り道、公園の前で突然光に包まれたと思ったら、目の前に血だらけの美人さんが出現。

しかも公園に入ろうとはしゃいでた餓鬼どもがみんな消えてるし…。アスファルトの道路やら建物やらなくなって、森の中だし…。

ちなみに公園とは、中学生のところに同級生の女の子に振られたあの場所である。

あの場所って言っても誰も分らないと思うが…。

過去のふられた辛い記憶は、この際どうでもいい。どうしてもよくはないが今は置いておこう。

大切なのは、突然森の中に飛ばされて、血だらけの20歳くらいの美人なお姉さんが目の前に倒れているということだ。

しかも、よく見るとなぜか美人さんの背中からおっきな蜘蛛の足？みたいなのが四対生えているし…。

人間の腕より大きな蜘蛛の足が…。

携帯電話を確認してみるが、なぜかというか、それとも、やはりと

言えはいいのか、圏外だった。

「大丈夫ですか？」

なんて間拔けな質問だろう？

自分でもわかる。

気が動転して他に言葉が出なかった。

肩から腹にかけて大きく体が裂けて、血まみれだ。大丈夫なわけがない。

近づいて声をかけるが、美女の赤眼には生気がない…。

彼女の伸ばした手をおもわず掴む。褐色の肌が激しく波打ち、血が傷口からあふれ出していく。

不規則で荒い呼吸が耳に纏わりつくように絡んでくる。

「誰かいませんか？怪我を治せる人いませんか？」

思わず叫んでしまう。

声が周りに木霊するだけで、誰からも返事はない。

あたりを見回すと、見たことのない木に囲まれていることに気がついた。森独特の湿った臭いに澄んだ空気は、日本の森と変わらない。ただ、血臭が混じっているため、さらに焦燥感を加速させる。

”異世界人藤沢章の召喚を観測しました。

数奇の女神より祝福ポイントが250ポイント藤沢章に贈呈されました。

召喚事故を観測しました。

嘲笑の邪神より祝福ポイントが50ポイント藤沢章に贈呈されました。

藤沢章の合計祝福ポイントは、300ポイントになりました。”

頭の中に突然声が響いてくる。

異世界人の召喚？数奇の女神？祝福ポイント？嘲笑の邪神？？？

意味が分からない？？？

「誰かいるのか？いるんだったら出てきてくれ！」

返事はない。

空耳か？いや確かに聞こえた。それもはっきりと。

とても明るいふざけた声。この状況に似つかわしくない澄んだ声。

嘲笑やら邪神やら祝福やらと、この状況でふざけた単語を並べてくる声はつきり聞こえた。

何もできない自分のことは棚に上げて、責任転嫁のためかかなりい

らつき、大声になる。

「おい隠れてないで出てこい！！」

「何が女神だ。何が神だ。くだらんこと言ってる間があったら、目の前の彼女をどうにかしろ！」

” 藤沢章の願いに博愛神から返答がありました。

藤沢章が対価として無意識接触属性の付加を了承し、さらに祝福ポイント200を支払うのであれば、彼女の治癒を行ってくれるようです。”

また、わけのわからないアナウンスが頭に響く。

博愛神？無意識接触属性？祝福ポイント？

何のことだ？

訳が分からない。

蜘蛛女の手が小刻みに震えているのに気付く。

このままだと、長く持たないのは目に見えている。

「女神だか神だか何だかわからないが、治せるなら早く直してくれ

「！」

大声で叫ぶ。こんなに大声を出したのは、小学生以来だろう。普段大声を出さないせいかな咽そうになるのをこらえると頭に再び声が響いてきた。

” 藤沢章の願いを受諾しました。

対価として、藤沢章に博愛神の無意識接触属性が付加されました。さらに対価として、藤沢章は祝福ポイント200を支払いました。藤沢章の合計祝福ポイントは、100ポイントになりました。”

そんなアナウンスと同時に、腕の中の蜘蛛女が突然光り出し、まぶしくて思わず目をつぶってしまう。

目をゆっくりと開け、だんだん、目が慣れてくると、蜘蛛女の傷が完全に塞がり、寝息を立てているのに気がついた。

第一話：蜘蛛女と辞世の句

蜘蛛女の傷が完全に塞がり、寝息を立てている。

なんだ？意味がわからん？？？

さっきまでのシリアスモードは一体何だったんだ？？

ドッキリか？？

俺にドッキリしてなんか意味あんのか？

血もなくなっているし、挙句の果てに、蜘蛛女の破けてた服まで直っているし。

何だこの不思議現象は？？？？

周りを見渡したが、やはり誰もいない。

「うう」

目鼻立ちの整ったいわゆる典型的な褐色美女なのだが、似つかわしくないかわいい呻きが聞こえてくる。

これからは”蜘蛛女さん”と、さん付で呼ぶことにする。

少し心がいやされて、心が落ち着いてくるのか自分でもわかる。

褐色の肌に黒髪。スツとした鼻にそして、先ほど見つめてきた？？時に見えたくりっとした緋色の目。

やはり蜘蛛女さんはとても美人であることを改めて確信。

そしてなんといっても、このダイナマイトボディ。

もみもみ。

うん？？

もみもみ。

えええええ！！！！

あ…ありのままに今起こったことを話すぜ！

今俺は目の前の蜘蛛女さんが可愛いと思ったら、俺の右手はいつも間にか蜘蛛女さんの胸を揉んでいた。

な…何を言ってるのか わからねーと思うが、俺も何をしているのか分からなかった。

頭がどうにかなりそうだった…

催眠術だとか、超スピードだとか

そんなチャチなもんじゃあ 断じてねえ

もつと恐ろしいものの片鱗を味わったぜ…

いかん、いかん。現実逃避してる場合じゃない。

意味が分からん。

いくら俺がむつつりとはいえ、寝ている女の胸を揉むとかあり得ない。

何が起こっている？

どうした俺？ 異世界召喚とやらで気が大きくなったのか???

モミモミ。

はっ。殺気！

どうやら蜘蛛女さんが目覚めたようです。人も殺せそうな鋭い殺気です。堅気の俺でも分かります。

そして、私の監獄行きも決まったようです。

ごめんなさい。お父さん、お母さん。あなたの息子は、高校生にして立派な犯罪者になりました。

蜘蛛女さんが引きつった笑いを見せながら、俺の頭に手を伸ばしてくる。

もしかして、撫で撫でか？ 褒められるのか？ セクハラした俺を許してくれるのか？

ミシミシ。

蜘蛛女さんは、アイアンクローという古風な技で私に制裁を加えるようにしたようです。

「s d o i u o u a f a j j . j a o j f a o j f a . j o a
i j o d i j f a o i j f a o j o a j o f j o a j o a f
j f o j a s d f k f c z p v f j a d e i f j e i a o f j

a o j

美女がアイアンクローしながら喋ってくるのだけど何言ってるのかわかんない。

やはり異世界なのか？

アイアンクローの力半端ない！

俺の今の状況説明しようか？立ち上がった長身の美女にアイアンクロー状態で無理やり持ち上げられて、足浮いてます。

女の細腕なのにめっちゃ力強いです。

絶対異世界決定だね！

さっきから、謝っているんだけど言葉も通じないし。

俺、命の恩人だよ！！おそらく！！！！何が起ったかわかんないけど…。

まあ、眼が覚めたときに胸揉んでる男がいたら、普通は犯罪者だと思うよね。

少なくとも恩人とは思わないよね。

ごめんなさい。お父さん、お母さん。あなたの息子は、監獄より前に天国に行くようです。変態行為で返りうちされて天国に行けるかどうかは分からないけど…。

まあ、嘲笑の邪神という訳分からん存在がいるんだとしたら、ムチ

ムチでボイナ変態の女神とかも居てもおかしくないし天国行きは
大丈夫だね。

脳内神様かもしれないけど…。

「f j a p u j j j p f j a p o f j p j p l f p a j k
a k p o k a f p j o f p o j f a p o j f a p f f a i f j
j p a o f j a i o p d i f p j a f p j j k p a o j k」

何言ってるんだろ？

とりあえず俺の頭がい骨が限界みたいだし、さっきの脳内神様に喋
れるようにしてもらえないかな？

あの怪我治せるんだったら、大丈夫だね…。

大丈夫のはず…。

” 藤沢章の願いに言語神から返答がありました。

藤沢章が妄想漏洩属性の付加を了承するのであれば、祝福ポイント
50で公用語ドーマ語スキルを付与してくれるようです。”

「OK OK! 何でもいいからそれお願い。

早く謝らないと、俺の頭が持たない!!!」

” 藤沢章の願いを受諾しました。

藤沢章に公用語ドーマ語スキルが付与されました。

対価として、藤沢章に言語神の妄想漏洩属性が付加されました。

さらに対価として、藤沢章は祝福ポイント50を支払いました。

藤沢章の合計祝福ポイントは、50ポイントになりました。”

「で、最後にいい残すことはあるかい？」

最初に理解した言葉が死刑宣告でした。

お父さん、お母さん。あなたの息子は、やはり先に天国に旅立つみたいです。

第二話：二人の美女と逃避行（上）

絶賛取り調べ中のいたって普通のむっつり高校生藤沢章17歳です。

美人な加奈さんとマンツーマンでお話中です。

あっ、加奈さんっていうのは、蜘蛛女さんの名前らしいです。

本名は、加奈・ヴァレンダン・夏目って名前らしいからそう呼ぶことにした。

なんか日本人のハーフみたいな名前だな…と思ったら、大和国人の父親と蜘蛛族の母親の子供らしい。

大和国って…。

まあいいや。今はそんなことより重要なお話中だ。

「で、あんたは異世界から来たと…」

「たぶん」

「確かに、この携帯とやははみたことないし、服装も変わっているけどね…」

「なんでここにいるか理由分かります？」

「おそらくそいつが召喚したんだろね」

「そいつ？」

「あんたが椅子にしてる女だよ」

えっ。

何を人聞きの悪いことを…。

紳士な俺が女性を椅子にしているだと…。何を馬鹿な…。

いた！！

確かにいた！！！！

やけに地べたにしては座り心地がいいと思っていたが、何て高度な変態プレイをしていたんだ。

普通の高校生には早すぎるプレイだ…。

まあ、気が動転していたし、不幸な事故ということであつぶせの女性？の人には許してもらおう。

黒いローブ羽織っているから性別分からないけど…。

確かに言われてみれば、柑橘系の香水か何かの匂いがするし女だろう。

とりあえず、ひっくり返してあげよう。

地べたに口づけはかわいそうだ。

ローブを持ってひっくり返すときに、スレンダーな女性であることが分かる。

スレンダーってのは、軽いから判断したんだよ。

決して、とある部位を触ったわけじゃないからね…。俺紳士だから！
ずいぶんぶかぶかなローブきてるな。お下がりかな？

まあ、取りあえず分かったことは、異世界人だからって、体重が重
いってことはなさそうだ。

力は遥かに強かったけど…。

未だにこめかみがジンジンするよ。

アイアンクローから解放されてだいぶ経つんだけどね…。

とりあえず、椅子の女は俺と同年代くらいの少女であることが分か
った。

透き通る白い肌。ローブから覗く真っ赤な髪。細身でそこそ長身
の少女だ。

加奈さんみたいな蜘蛛の足は生えてないみたい。

ローブ羽織ってるから、しっぽとかあっても分かんないけどね。

少なくとも残念ながら猫耳はなかった。

なぜわかるかって？

そら紳士としては頭のフードくらいは、いったん取って確認しま
すよ。

だって異世界ですから。

夢見たっていいじゃないですか！

まあ。フード取って分かったのは、美少女だと言うくらいかな。
ピンクのかわいい小さな唇に小さなつんとした鼻、おそらく相当も
てるだろう。

異世界のかawaii基準は分らないが、地球では100人いたら9
9人はかわいいと言うだろう。
残り一人は、ブス専だ。

あと、メチャメチャでかいサングラスをかけたメチャメチャ怪しい
少女であることも分かった。

なんで、こんなでっかいのつけてんだ???

流行ってるのかな?

異世界センスは分らんな?

モミモミ。

しまったー!!

まただ。

また、いつの間にか揉んでいた。

何をとは言わないが、揉んでいた。

どうしたんだ俺!

なぜだ???いつから俺は紳士をやめたんだ???むっつり道をい
つのまに踏み外していたんだ?????

「あんた、もしかして博愛神の無意識接触属性持ちかい？」

混乱している俺に蔑んだ目を向けながら加奈さんが質問してくる。

「えっ、知ってるんですか？」

何か加奈さんを治したければ、対価で無意識接触属性を付加させて…。

何なんですか、それ？」

「そうかい。あんたが直してくれたのかい。ありがとう」

「いえいえ。困った時はお互い様です」

「あんた…、かなり変わってるね。」

私の体見ても何の思わないみたいだし…」

体????ダイナマイトボディのことか?????

俺は紳士だからね。

ああ。もしかして、背中に生えてる蜘蛛の足のことか？
多少の欠点など美人ということの前には、些細なことだ。
むしろ、欠点があった方が可愛く見いたりする。

「美人は正義だ!!!」

イカン思わず大声出してしまった。
いつもなら、心の中で叫んでるだけなのに…。
やっぱ異世界補正で、気が大きくなってるのかな…。気をつけないと。

「そ…、そうかい。何がいたいのかよく分からないが…」

なんか、加奈さんが若干引いてるような気がするが気のせいだよな。
気のせいだと言ってくれ…。

「そーいや、無意識接触属性のことだけど…」

微妙な空気に耐えかねたのか加奈さんが話を戻す。

「いつの間にかセクハラしてしまう属性だよ…」

えっ？

セクハラ属性？？？

異世界召喚された主人公に与えられる特別でチートな属性じゃないの？？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7055z/>

祝福召喚と主人公補正

2011年12月24日00時53分発行